

科目名 Course Name	生活支援技術V Independent Living Skills V						
年次	1年	期別	後期	単位数	1	授業形態	演習
担当者氏名	石川 幸子						
連絡先(質問等)	福祉棟2階研究室、オフィスアワーは月・火・木・金の授業時間以外						
必修/選択	選択(介護福祉士養成課程 必修)						
関連 DP	DP2,DP5						
授業の概要と到達目標	<p>&lt;概要&gt;</p> <p>疾病や事故に起因する運動機能障害の特性を中心に、個々の具体的な生活障害を理解し、介護における基本的な視点や留意点について学ぶ。そして、日常生活上の支障が軽減できるよう、生活支援技術Ⅱと連動した生活支援技術を習得する。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>①運動機能障害に関連する主な病態と症状および具体的な生活障害を説明できるようにする。          ②運動機能障害のある人への基本的な介護の視点と留意点を説明できるようにする。          ③運動機能障害のある人への適切な技術を習得できるようにする。          ④日常生活の拡大を図るために必要な福祉用具の知識を習得できるようにする。</p>						
授業の方法	演習科目であるが講義も併用する。運動機能障害による生活障害を具体的に理解するために、運動機能障害を想定した演習を行う。教員がデモンストレーションを行った後、グループに分かれて演習する。演習では、利用者役と介護者役の両方を体験し、援助の際の留意点を考えながら基本技術を習得できるようにする。単に手順を覚えることに集中するのではなく、一つ一つの介護の根拠を考えながら実践していく。						
学習成果	L01	運動機能障害と生活障害をむすびつけ、障害の状況に応じた生活支援技術を習得することができる。					
	L02	福祉用具を活用し、日常生活の拡大を図ることができる。					
	L03						
	L04						
課題に対するフィードバック	レポートはコメント記入・評価後学生に返却、小テストは実技実施後の振り返り点等を記載し返却、平常試験は試験後に模範解答を示す。						
教科書/参考図書	①教科書:最新・介護福祉士養成講座 第8巻「生活支援技術Ⅲ」 中央法規出版 ②生活支援技術マニュアル						
履修上の留意点やルール等	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義・演習とも積極的に取り組み、演習時は身だしなみを整えること。また、自己練習をし、技術の向上に努めること。小テストについては、他科目との兼ね合いから、変更することがある。やむを得ず欠席する場合は必ずその部分の学習を補い、届け出は速やかに提出すること。</li> <li>●事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 45 分とする。</li> </ul>						
担当教員の実務経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実務経験(職種:介護福祉士、職歴:通算 13 年)</li> <li>●特に高齢者介護の多様な経験を、運動機能障害のある方の移乗方法のデモンストレーションを行う際や、演習実施時の留意点等の説明時に活用する。</li> </ul>						
成績評価の方法と基準							
評価の領域	評価基準	学習成果の割合					
		L01	L02	L03	L04		
授業参加態度	配布資料を活用し自主的にメモしている。演習時は身じたくを整え、積極的・自主的に参加している。指導を受け入れ技術を習得しようと努力する姿勢がみられる。	20					
レポート/作品	1、2:演習の振り返り(各 10%) 1-S:演習内容を踏まえ、利用者役・介護者役両面からの学びを記述している。2-S:目標の達成度について、自己評価し具体的に考察している。		20				
発表							

小テスト	第 11 回目に技術の確認(片麻痺のある方の移乗)の実技試験を行う。 マニュアルに従い、安全・根拠に基づいて技術が手順通り提供できている。		20		
試験	運動機能障害に関連する医学的知識・病態、介護上の留意点、利用者の状況に応じた生活支援技術、片麻痺・対麻痺・四肢麻痺の方の移動介助、運動機能障害に伴う症状と介護上の留意点について理解ができています。		40		
その他					
<b>合 計</b>			20	80	
<b>回数</b>		<b>授業計画</b>			
1	<b>授業内容</b>	ガイダンス(授業のねらい・評価の方法・演習時の注意など) 利用者の生活状況に応じた生活支援技術とは【講義】			
	<b>事前・事後学習</b>	テキスト P2～P9 までを読んで重要箇所にアンダーラインをひく。			
2	<b>授業内容</b>	運動機能障害に関連する医学的知識 主な病態と介護上の留意点① 脳血管障害【講義】			
	<b>事前・事後学習</b>	脳血管障害の分類を調べる。			
3	<b>授業内容</b>	運動機能障害に関連する医学的知識 主な病態と介護上の留意点② 骨・関節疾患、脊髄疾患【講義】			
	<b>事前・事後学習</b>	テキスト P280 の道具は、どのような障害に適しているか調べる。			
4	<b>授業内容</b>	運動機能障害に関連する医学的知識 主な病態と介護上の留意点③ 脳性麻痺、筋委縮性疾患【講義】			
	<b>事前・事後学習</b>	テキスト P285～P294 を読んで重要箇所にアンダーラインをひく。			
5	<b>授業内容</b>	運動機能障害に関連する医学的知識 主な病態と介護上の留意点④ パーキンソン病、四肢の欠損・切断【講義】			
	<b>事前・事後学習</b>	テキスト P256～P266 を読んで重要箇所にアンダーラインをひく。			
6	<b>授業内容</b>	利用者の状況に応じた生活支援技術① 片麻痺のある利用者への上方・水平移動、体位変換、端座位【演習】			
	<b>事前・事後学習</b>	生活支援技術マニュアル P20～P24 を読んで重要箇所にアンダーラインをひく。			
7	<b>授業内容</b>	利用者の状況に応じた生活支援技術② 片麻痺のある利用者への端座位、移乗 その 1【演習】			
	<b>事前・事後学習</b>	生活支援技術マニュアル P85～P88 を読んで重要箇所にアンダーラインをひく。			
8	<b>授業内容</b>	利用者の状況に応じた生活支援技術③ 片麻痺のある利用者への端座位、移乗 その 2【演習】(レポート 1 提出:第 9 回目)			
	<b>事前・事後学習</b>	レポート作成。			
9	<b>授業内容</b>	利用者の状況に応じた生活支援技術④ 対麻痺・四肢麻痺のある利用者への体位変換、移乗【演習】			
	<b>事前・事後学習</b>	生活支援技術マニュアル P89～P94 を読んで重要箇所にアンダーラインをひく。			
10	<b>授業内容</b>	片麻痺のある利用者への移乗・移動に関するまとめ【演習】(レポート 2 提出:第 11 回目)			
	<b>事前・事後学習</b>	レポート作成。			
11	<b>授業内容</b>	片麻痺のある利用者への体位変換・移乗技術習得の確認・振り返り 小テスト【実技試験】			
	<b>事前・事後学習</b>	実技試験後の自己評価表をチェックする。			
12	<b>授業内容</b>	運動機能障害に伴う症状と介護上の留意点① 運動麻痺、知覚障害等【講義】			
	<b>事前・事後学習</b>	麻痺の分類を図解する。			
13	<b>授業内容</b>	運動機能障害に伴う症状と介護上の留意点② 言語障害、意識障害等【講義】			
	<b>事前・事後学習</b>	言語障害の分類を調べる。			
14	<b>授業内容</b>	運動機能障害に伴う症状と介護上の留意点③ 失行、失認等【講義】			
	<b>事前・事後学習</b>	失行の分類を調べる。			

15	<b>授業内容</b>	機能代行と補助機器、福祉用具の活用(移動用リフト・リクライニング車椅子・介護用車いす、スライディングボードなど)【演習】
	<b>事前・事後学習</b>	生活支援技術 I P149～P162 を読んで重要箇所にアンダーラインをひく。